

1人1台端末と高速通信回線により、時間的・空間的制約を超え、双方向性が担保されることで、学校と家庭が円滑につながり、学びの連続性、生活の連続性が保障されます。FGSt構想は、子供たちが主体的に学習する「新たな学び」を創造します。

えいごであそぼう



ZOOMを使って、毎週日曜、本校OGの大学生と3・4年生の希望者が、やさしい英会話を楽しんでいます。

家庭deくじらーニング



くじらーニングは、授業の内容を放課後や家庭でも、連続して活用することができ、学びの連続性が生まれています。

オンライン学校公開



ZOOMを使って、学校と家庭をオンラインで結び、日常の授業や道徳公開、学校行事の様子を随時配信しています。

Fujimi Art Galley Web



Google Photosを使って、自分で撮影した作品をクラウドに保存し、互いに学び合う教材とともに、ご家庭でも閲覧できます。

アンラグドプログラミング



身近な物事をテーマに、順序立てて考えたり、考えていることを可視化したり、物事を論理的に考える学習をします。

ビジュアルプログラミング



ScratchやVISCUITの言語を使って、プロセスを組み合わせて動かす過程で、論理的思考や課題解決能力を育成します。

ストップモーション動画



パソコンクラブでは、プログラミングの他に、様々なアプリや動画を参考に、創造力を働かせながら楽しんでいます。

フィジカルプログラミング



組み立てたロボットに、プログラミングで命令を出し、目的に応じた一連の動きをさせ、よい社会づくりに生かします。

言語能力と同様、「学習の基盤となる資質・能力」である情報活用能力を育成し、ICT機器を「Smart tool(賢い道具)」として使いこなして、各教科の学びを深めます。プログラミング教育では、プログラミング的思考を育成し、論理的な思考力を向上させます。

教員研修の充実



教育の情報化に向けて、ICTを活用した教員の指導力向上とともに効果的な教材開発や学習履歴の活用、指導体制を充実させています。

校務の情報化推進



校務用PC、学習用TB、多目的iPadと、3種類の端末を使いこなして、情報の共有・一元化等、効率化を図っています。

管理規定等の整備



情報発信や個人情報の保護、管理・運用方針、児童の健康に関する留意事項等、校内規定を定め、法令等を遵守しています。

ICT環境の整備



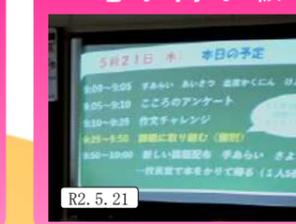
1年前はブラウン管TVが全教室に鎮座。大型TV、OHV、児童用端末、教員用iPad、高速通信回線、デジタル教科書等、急遽に整備しています。

情報の発信・受信



学校HPやマチコミによる情報発信、メールによる欠席連絡やアンケート、オンラインにより双方向のコミュニケーションが実現。

電子掲示板



GIGAスクールに登校した子供たちは、大型TVで1日の予定を確認し、自分のタブレットで課題を受け取ったり、提出したりします。

登校前に、家から出欠連絡と健康記録・宿題等を提出します。登校したら、電子掲示板で今日の予定や課題を確認します。1人1台のタブレットで、短作文のテーマやコグトレを受け取り、作文チャレンジノートを書いたり朝の読書をしたり、1日の始まり。

オンライン児童集会



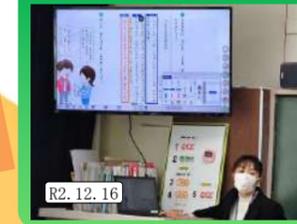
ZOOMを使って、体育館と教室をオンラインで結んで、双方向の「じゃんけん大会」「先生クイズ」等を楽しんでいます。

オンライン全校朝会



Google Meetを使って、校長室から、動画やプレゼンの画面を提示しながら、分かりやすいお話を心掛けています。

指導用デジタル教科書



指導者用デジタル教科書を大型TVに映して、文章を内容のまとまりごとに色分けしたりして動画を再生したりできます。

大型TVと実物投影機



大型TVと実物投影機を使って手元を拡大することで、子供たちの視線を上げ、焦点化・イメージ化させ、理解を深めています。

教科書のQRコード



教科書をめくると、QRコードが各所に付いています。QRコードを読み取り、コンテンツを活用することで、理解が深まります。

教科書連動コンテンツ



教科書に連動した動画を有効に活用することで、毛筆の筆づかいや穂先まで、繰り返し視聴したり、スローにしたりします。

ふじみ GIGA スマート F スクール S ツール G 構想 Akishima City Fujimigaoka Elementary School Global and Innovation Gateway for All Smart City Smart Learning tool vision (Teaching tools for teachers) (Stationery for children) Since 2020

※写真は、令和2年度以降の本校の教育実践の実践です。

動きを比較する



撮影した動画をすぐその場で再生。課題を明確化しながら練習しています。前回の動きと重ねたり、並べたりもできます。

クラウド観察記録



Sky Menuを使って、画像や動画の記録・保護が容易となり、手書きのスケッチと併用することにより、学びが一層深まります。

ポジショニング



ポジショニングを使って、自分の思考を言葉で表現するとともに2次元グラフで可視化し、活発に意見交流しています。

思考を共有する



プロジェクターにノート等を投影。自分の考えや意見を発表し学び合うことで、思考力、判断力、表現力等を育成しています。

発表ノートを提出



発表ノートで課題の配布や提出ができ、画面上に手書きで線や文字を書き込んだり、画像を貼り付けたり、多様な活用をしています。

情報モラル教育



情報社会の一員として法の遵守や倫理とともに、ネット犯罪から身を守るなど、安全で適切な判断や行動が取れるようになります。

バーチャル社会科見学



昭島の水道「ネットDE見学」を、各自で閲覧。調べたことを付箋にまとめ、整理することで互いの着眼点を共有しました。

考え議論する



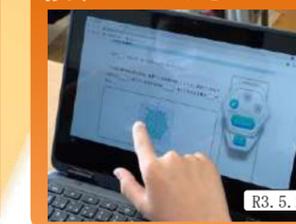
グループワークを活用し、複数の児童が同時に書き込めます。お互いの考えを共有して話し合う場が生まれます。

コグトレ



紙と鉛筆の代わりに、タブレットを活用して様々なコグトレをしています。写真の例は、形状や位置関係を把握するトレーニングです。

授業deくじらーニング



1人1台になったことにより、学習履歴型ドリルコンテンツを使って、習熟の状況を確認しながら授業でも活用しています。

個別に動画視聴



自分の課題や進度に合わせて、教材動画により、製作手順やポイント等を確認しながら、効果的に技能を習得しています。

児童用デジタル教科書



1年生が児童用デジタル教科書(生活科)のページをめくったり、拡大したりしながら、興味深そうに閲覧していました。

授業では、先生がデジタル教科書や動画で分かりやすく説明。まずは、個に応じた課題や多様な資料を活用して、自力解決。SKYMENU CloudやG-Suiteを用いて、発表したり共有したり。複数の考えから議論、協働し、課題を解決していきます。



「教育の情報化」が果たす役割

21世紀を生きる子供たちに求められる力を育む教育を行うためには、子供たちの学習や生活の主要な場である学校において、教育の情報化を推進することが必要です。

教育の情報化の推進

- 子供たちの情報活用能力の育成
- ICTを効果的に活用した分かりやすく深まる授業の実現
- 校務の情報化の推進

教育の情報化による「学びのイノベーション」

情報化が進展する中で、学校においては、デジタル教科書・教材、情報端末、ネットワーク環境等が整備され、ICTの特長を最大限に生かし、「一斉指導による学び（一斉学習）」に加え、「子どもたち一人一人の能力や特性に応じた学び（個別学習）」「子どもたち同士が教え合い学び合う協働的な学び（協働学習）」を推進することが重要です。

※ ICTとは Information and Communication Technology の略で、コンピュータやインターネット等の情報通信技術のこと

21世紀にふさわしい学びの環境とそれに基づく学びの姿（例）

ICTを活用した授業においては、「一斉学習」、「個別学習」、「協働学習」それぞれの学習場面が相互に組み合わされた学びの場が形成されます。



インターネット等を活用して、地域の人々や国内外の学校の子供たち、さらには、社会教育施設、研究機関等の専門家等との交流を図り、多角的な思考力等を育む授業を行います。



子供たちが情報端末を用いて繰り返し学習を行ったり、コンピュータにより子どもたちの回答の診断とその個に応じた補充・発展が行われることにより、知識の定着や技能の習熟を図り、基礎基本の習得につながる活動を行います。



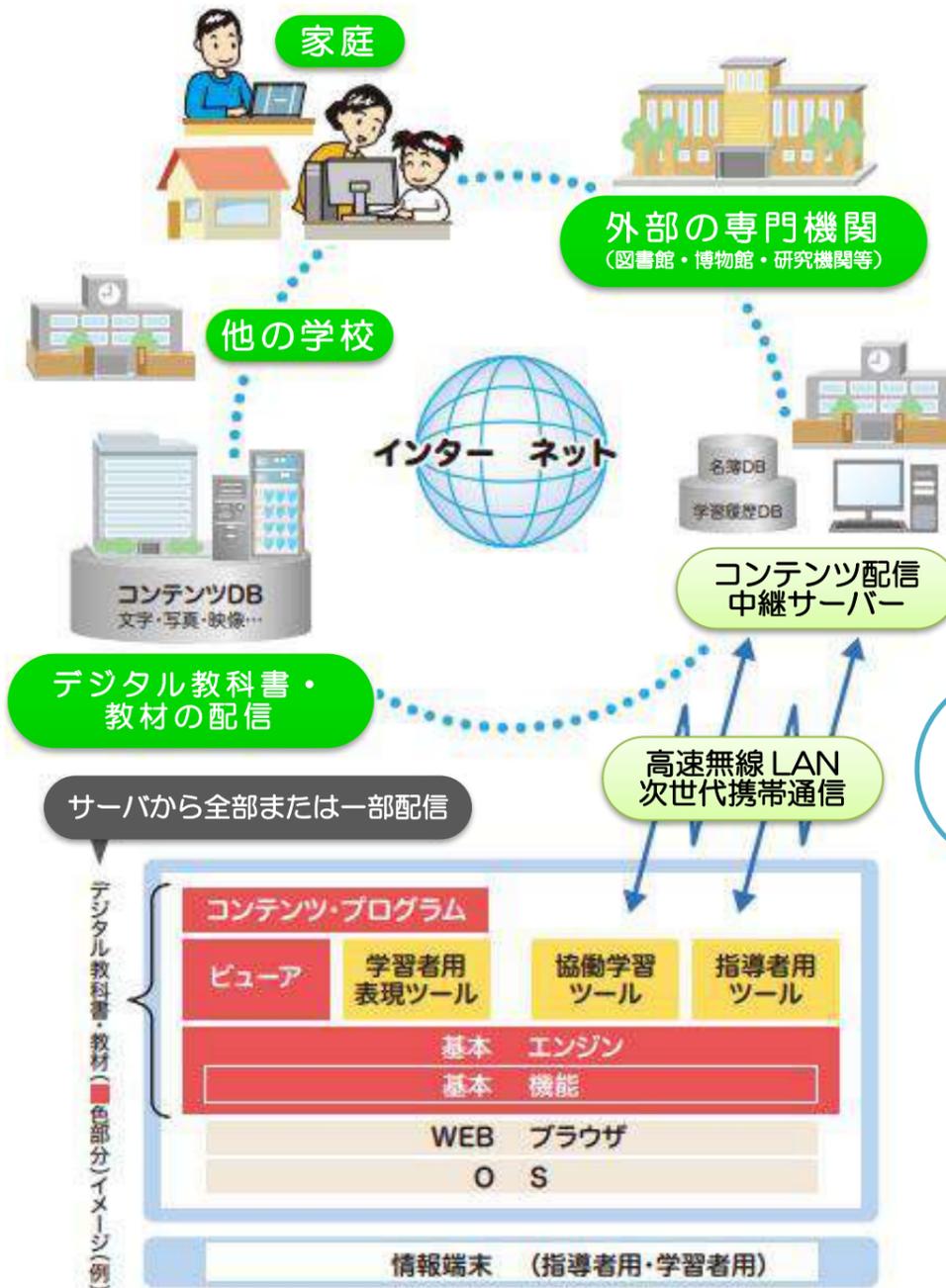
図形等の拡大・縮小・回転等の操作を容易に行い試行錯誤を可能とし、課題を明確にすることなど、思考力・判断力・表現力を深める活動を行います。



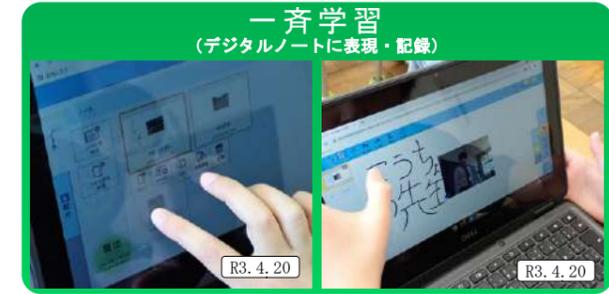
文字や画像等の拡大機能、アニメーションや立体画像を示す機能等により、子供たち一人一人の学習ニーズに柔軟に対応するとともに、教員のデジタル教科書との連動により、知識の獲得を可能とします。



教員の教材作成・学習履歴の活用・教員間の情報共有等、校務の情報化における活用が有効です。



地域の大人へのインタビューや植物の観察、情報端末での撮影等により、必要な情報を収集するとともに、気付いたことを記録します。



ビデオ録画したインタビューの様子やデジタル顕微鏡で撮影したことを、「デジタルノート」を用い音声や写真などのマルチメディアで表現します。



子供たちの情報端末や電子黒板を無線LANでつなぎ、情報端末への書き込みを電子黒板等で一斉に共有し、発表・討議を行います。



自己の意見や他者の意見について、観点ごとに分類・整理する場合に有効です。

- (注1) 各部の名称は仮称である。例えば、基本エンジンは、プラットフォームということも考えられる。
- (注2) 基本性能としては、編集・移動・追加・削除・採点などが考えられる。
- (注3) 「学習者用表現・協働学習ツール」として、デジタルノート、メール等が考えられるが、学習者用デジタル教科書・教材の範囲に含めることも考えられる。
- (注4) 「指導者用ツール」として子どもたちの情報端末の画面をモニター及び制御することなどが考えられるが、デジタル教科書・教材の範囲に含めることも考えられる。
- (注5) 授業風景については、あくまでもイメージであり、特定の情報端末等を想定しているものではない。

このような「学び」は、基礎的・基本的な知識・技能の習得や、思考力・判断力・表現力等や主体的に学習に取り組む態度等の育成に有効です。